埼玉県舞踊協会
NO.28

埼玉県舞踊協会ニュース

Saitama Dance Association

発行所：埼玉県舞踊協会
発行者：津田 郁子
埼玉県さいたま市浦和区東仲町 1-16 鳥昇ビル 3F
TEL:048-882-7530 FAX:048-882-7549

「難しい時代」

埼玉県舞踊協会会長 津田郁子

埼玉全国舞踊コンクールの審査後の集まりでしたが、審査にあたった山野博大先生や他の現代舞踊の審査員の先生方が、口々に「現代舞踊作品が、今年は、変わってきた」とおっしゃっていらっしゃいました。確かに従来の技術の羅列的な、いわゆるコンクール、コンクールした作品が少なくなり、工夫された多彩な表現に作者や踊り手の関心が向いていたように見えました。

このような変化は、社会全体の閉塞的な時代感覚の反応なのかもしれません。オバマ氏が大統領になったのも、こうした流れと無縁ではないのでしょう。「チェンジ」を合言葉に、アメリカを動かしたばかりか、日本にも飛び火し、衆議院選挙では民主党が、以前には想像できなかったほど議席数を増やしました。鳩山首相が、オバマ大統領のお陰で、民主党が勝利したと謝辞を述べているニュースが流れました。社交辞令もありましょうが、変えないといけない問題が山積みし、何とかしなくてはという思いが、社会全体の流れのようです。

舞踊については、これだけの経済成長を果たしたのに、国立舞踊団がなく、公演活動に対する助成金もアジアのなかでさえ上位に居るとは思えない状況です。民活で活動するにしても、劇場費が高く、踊り手を育成する教育制度も確立されていません。この酷い環境整備こそ、この期に、変革に向かって欲しいのですが、こちらの方向には、風が吹いてこないようです。

けれど、このような厳しい環境の中でも、若い人の創作に変化が現れてきたことは、すごいことだと思います。特に現代舞踊においては、新しい創意工夫が大切です。創意工夫を積み重ね、質の高いものに高めて、一つの潮流として押し出すことができたら、大きく社会を動かすことになると確信いたしております。

難しい時代を現代舞踊は創意工夫で、バレエは伝承された技術の向上を積み重ね、いつかはこちらの方向に風が吹くまで、粘り強く頑張らなくては、と思います。

第42回 埼玉全国舞踊コンクール

モダンダンス・クラシックバレエ

7月22日～29日 さいたま市文化センター大ホール・小ホール

主催◎埼玉県舞踊協会　共催◎（財）さいたま市文化振興事業団
後援◎埼玉県／埼玉県議会／埼玉県教育委員会／埼玉県文化団体連合会／朝日新聞さいたま総局／埼玉新聞社
東京新聞さいたま支局／毎日新聞さいたま支局／読売新聞さいたま支局／テレビ埼玉／チャコットKK
（社）現代舞踊協会／（社）日本バレエ協会／（財）橘秋子記念財団

撮影／山口晴久

第42回埼玉全国舞踊コンクールは、種々の課題に包まれましたが、無事終了することが出来ました。

コンクールは42年の歴史を持ち、本当に会員の舞踊に対する情熱にて、ボランティアで始められました、そして、沢山のダンサーが世界中で活躍されておられますことに、このコンクールの意義を感じております。最近日本中に開催されているコンクールに、埼玉全国コンクールのあり方を舞踊協会として考慮する時を感じておりますが、埼玉県舞踊協会らしさも失わないコンクールをと!!

チーフプロデューサー　矢野美登里

評 モダンダンス部門

舞踊評論家 山野博大

故なき境界線を消し去り、さりげなく進化の一歩を踏み出したモダンの出場者たちに拍手をおくる――

埼玉県全国舞踊コンクールのモダンダンス部門を審査して感じたことを書くようにとのことである。点をつけている時には、正直言って特に何か特別なことを感じているという意識はないものだ。埼玉のコンクールは第1回からだし、その他にもいろいろとコンクールの審査をやってきたので、見たとたんにほとんど無意識のうちに手が動いて点を入れてしまうようにからだが出来ている。動きがどうだとか、衣裳のぐあい、音の使い方がどうかなどをあれこれ考えて、その結果として点をはじき出すわけではない。そんなことをしていたら、たいへんな数の審査に体力の方がもたなくなる。審査をたくさんやっているうちに、誰もがこんな感じで点をつけるようになるのではあるまいか。私の場合は、将来性の感じられる出場者にはちょっと点を甘くする傾向がある。しかし将来性というものも今の段階での判断であり、確定的なものではないので、考慮に入れない方がよいのかもしれない。

いろいろと考えるのは、点数の集計が終わり、順位が発表されてからだ。しかしたいていの場合、その段階になっても格別の感想が出てくるわけではない。共に審査にあたる審査員の顔ぶれを見れば、どんな傾向で点が出てくるか、おおよそ予想がつくからだ。同じ時代に日本の舞踊界に生きている仲間同士で点をつけているのだから、上位を占めた人たちの顔ぶれと自分のつけた点との間に、大きなくい違いが出るなどということは、ほとんどありえないのである。

今年も順当な結果が出た。しかしシニア部門の上位入賞者のダンスの質は、今までのものと比較するとかなり違っていた。共に審査にあたった協会の若松美黄氏と「みごとに変わったね」と、思わず顔を見合わせたことを思い出す。「変わった」のは、戦前から積み上げてきた日本のモダンダンスの動きの質なのだ。コンテンポラリー！ダンスという分野が現れてきたことにより、戦前から築き上げてきた日本固有のモダンダンスのテクニックの質を、世界の流れから外れた特殊なものと見る現象が起った。コンテンポラリーをやっている者の一部には、日本固有のモダンダンスとの間に境界線を引いて、立ち入ることを自ら禁ずるという、きわめて憂慮すべき風潮も見えていた。

そのモダンダンスとコンテンポラリーは違うという考え方を、今年の埼玉コンクールの出場者たちはあっさりと乗り越えていた。コンテンポラリーの分野が固有のものとしていた動きのさまざま、その質感などを、彼らは自分のやっているダンスの中に、みごとに取り込んで故なき境界線を消し去ったのだ。それを見て、私たちは「みごとに変わったね」という会話を審査員控室で交わしたというわけだ。そのさりげない進化のステップを多くの審査員が支持したことは、今年の上位入賞者の顔ぶれによって証明されている。

評 クラシックバレエ部門

舞踊評論家 うらわまこと

全体のレベル、権威は高いが、評価面の難しさも――

埼玉全国舞踊コンクールは、戦前からの全国舞踊コンクールを除けば、もっとも長い歴史をもつバレエとモダンダンスのコンクールです。この十年ほどの間にわが国では多くのコンクールが新設され、乱立状態にあります。本コンクールもその影響を受け多少参加者は減少したようですが、そのレベル、そして権威はますます高くなっています。

昨年暮に、このコンクールを産み、育てた前協会会長藤井公さんがお亡くなりになりました。もちろん、その前から津田郁子会長を中心に立派に運営されていますが、今回前会長の遺訓をたたえて藤井公賞が新設されたことは大変にすばらしいことです。

今回、クラシックバレエ部門を審査させていただいて、感じたことを率直に申し上げたいと思います。

先に述べたように、本コンクールは長い歴史の中で多くの優れたダンサーや指導者を育てつつ、スケール、レベルからもわが国を代表するコンクールとして権威を高めてきました。それでも他の多くのコンクールが抱えている問題が本コンクールにもあり、審査の場でもとりあげられたので、少し私見を述べさせていただきます。

問題は大きく2つあります。1つは体型、もう1つは男女の評価についてです。体型というのは、ここではプロポーションというより、はっきりいって肉付きのことです。もちろんクラシックバレエの場合、プロポーション（身体各部の比率）とか脚の形（X脚かO脚か、甲が豊かかなど）がとくに重要ですが、これについては生まれつきの条件をどれだけ努力でカバーしているかが評価の対象になります。ただ、いくらプロポーションや脚の条件がよくても、肉がつき過ぎていてはバレエダンサー、少なくともプロとしては失格。どのコンクールでも年齢が進むとこの傾向が著しくなります。本コンクールでも同じでした。技術や表現は巧みで品格もあり、基本的な身体条件もよいのに、残念ながら肉がつき過ぎると感じるダンサーが目につきました。これでは一流のプロとしては通用しません。とくに成人、シニアには、その認識と体型維持の努力を求めたいと思います。

男女の評価、順位についても、いつも、どこでも問題になります。今回もそうでした。たしかに男女ごとにはその順位はつけられますが、それを男女共通にすると、男子が優位になりがちです。男子の場合は、その希少性からの貴重品という判断は別として、どうしても回転や跳躍の派手さ、もっといえば曲芸的な動きが、女性の美しさ、繊細さよりも高く評価されてしまう。女性に厳しい原振付の尊重も、男性の場合には自由というアンバランスもあります。今回はそれほど極端な結果にはなりませんでしたが、この点はどうしたらよいか難しいところ。根本的には、男女を別の部門にしないと解決しないかもしれません。部門を増やすことは大変ですが、検討は必要だと思います。

モダン・1部 成人の部

今度は、名誉ある賞を頂き大変光栄に思います。自身の力では、ここまでやってこられなかった事、周りの皆様がいてからこそだと思います。驕る事なく更に精進に努めてまいりますので、今後とも宜しくお願い致します。

長谷川まいこ

モダン・ジュニア部

水島晃太郎

『練習は絶対に裏切らない』という和田先生の言葉を支えに頑張ってきた踊りが、素晴らしい結果につながりうれしく思っています。先生や応援して下さった方々への感謝の気持ちを忘れずに今後も努力を続けていきます。

モダン・2部 児童の部

小澤早嬉

埼玉コンクールでは一位をいただきとってもうれしかったです。「スゴン一布」という作品を作って下さった金井桃枝先生をはじめ支えてくださったみなさんに心から感謝しています。本当にありがとうございました。

クラシック・1部 成人の部

今回、一位を頂くことができ、嬉しく思っています。ジゼルは難しい曲なので、一つ一つ丁寧にやってきて、良い評価を頂くことができたと思います。これから、もっと素敵な踊りができるようにしていきたいです。

峯岸伽奈

クラシック・ジュニア部

飯塚絵莉

42年間と続いている歴史のあるコンクールでこのような素晴らしい賞をいただけて、本当に嬉しく思っています。これからも努力し、頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

クラシック・2部 児童の部

「アレルキナーダ」は大好きなヴァリエーションです。それを踊れ、その上賞もいただけて、とてもうれしいです。これからも、基礎を大切にしながら、表現をする事やテクニックをもっと勉強していきたいと思います。

阿部夏香

平成21年度 第42回埼玉全国舞踊コンクール

決選入賞者

モダン

1部成人の部

第1位	
橘秋子賞・藤井公賞・県知事賞	長谷川まいこ
第2位の1	
県議会議長賞	斉藤友美恵
第2位の2	
県教育長賞	木原浩太
第3位の1	
県文化団体連合会会長賞	鈴木いづみ
第3位の2	
県文化団体連合会会長賞	高橋純一
第3位の3	
県文化団体連合会会長賞	山根和剛
朝日新聞社賞	西村　葵
埼玉新聞社賞	海保文江
テレビ埼玉賞	小川麻里子
東京新聞賞	古木竜太
毎日新聞社賞	梅崎　礼
読売新聞社賞	青木香菜恵
チャコット賞	伊藤雅子

ジュニアの部

第1位	
橘秋子賞・県知事賞	水島晃太郎
第2位の1	
県議会議長賞	森山結貴
第2位の2	
県教育長賞	渡部悠子
第3位の1	
県文化団体連合会会長賞	宮本悠加
第3位の2	
県文化団体連合会会長賞	藤島美乃里
第3位の3	
県文化団体連合会会長賞	脇坂優海香
朝日新聞社賞	西川瑞紀
埼玉新聞社賞	服部千尋
テレビ埼玉賞	川合十夢
東京新聞賞	高城愛未
毎日新聞社賞	佐藤悠樹
読売新聞社賞	近藤　碧
チャコット賞	渡辺はるか

2部児童の部

第1位	
橘秋子賞・県知事賞	小澤早嬉
第2位の1	
県議会議長賞	山室有友美
第2位の2	
県教育長賞	石綱陽香・車田玲弥・向井万柚子
第3位の1	
県文化団体連合会会長賞	天野真希
第3位の2	
県文化団体連合会会長賞	木田瑛里香
第3位の3	
県文化団体連合会会長賞	植木晴花
朝日新聞社賞	由元美凪
埼玉新聞社賞	白旗華奈
テレビ埼玉賞	草島叶実
東京新聞賞	牧野寧花・海老名美歩・山下美咲・瀬戸彩加・湯川琴弓
毎日新聞社賞	中島帆乃香
読売新聞社賞	須崎汐理
チャコット賞	鈴木伶奈

クラシック

1部成人の部

第1位	
橘秋子賞・藤井公賞・県知事賞	峯岸伽奈
第2位の1	
県議会議長賞	山崎有紗
第2位の2	
県教育長賞	牧村直紀
第3位の1	
県文化団体連合会会長賞	山谷奈々
第3位の2	
県文化団体連合会会長賞	小林美奈
第3位の3	
県文化団体連合会会長賞	馬場　彩
朝日新聞社賞	小島沙耶香
埼玉新聞社賞	内島奈々
テレビ埼玉賞	三浦志乃
東京新聞賞	鳥羽麻里子
毎日新聞社賞	高井将伍
読売新聞社賞	土田明日香
チャコット賞	杉野早季

ジュニアの部

第1位	
橘秋子賞・県知事賞	飯塚絵莉
第2位の1	
県議会議長賞	直塚美穂
第2位の2	
県教育長賞	寺田　翠
第3位の1	
県文化団体連合会会長賞	柳澤実佳
第3位の2	
県文化団体連合会会長賞	佐々晴香
第3位の3	
県文化団体連合会会長賞	木暮絵梨子
朝日新聞社賞	吉田周平
埼玉新聞社賞	岩城　舞
テレビ埼玉賞	波多野渚砂
東京新聞賞	伊藤瑞穂
毎日新聞社賞	吉村りさ
読売新聞社賞	内野玲香
チャコット賞	赤川あかり

2部児童の部

第1位	
橘秋子賞・県知事賞	阿部夏香
第2位の1	
県議会議長賞	五十嵐愛梨
第2位の2	
県教育長賞	渡邊　綾
第3位の1	
県文化団体連合会会長賞	西尾美香
第3位の2	
県文化団体連合会会長賞	柳澤郁帆
第3位の3	
県文化団体連合会会長賞	渡辺千渚
朝日新聞社賞	畑戸利江子
埼玉新聞社賞	伊藤陸久
テレビ埼玉賞	二山治雄
東京新聞賞	宮本伊織
毎日新聞社賞	勅使河原綾乃
読売新聞社賞	荻原モモ
チャコット賞	石田詩歩

第36回ステージ1公演感想

副会長　藤井 利子

毎年、作品、ダンスを自由に表現、発表出来る場として、又、若手の成長や創作の新しい試みを楽しめる場として、出場者と観客が共に楽しむ貴重な場となっている。今年もレベル高く、明るい未来を感じつつ、終了した。以下、各作品の個人的、直感的感想を記させていただきます。「アリトゥル」(振付／桜井陽) 3年続けてのシリーズ。身を寄せ合う温もりを核として、身近に、時には遠く離れながら構成され、作者のダンス質感が定着して来た感。「今なら空だって飛んでやる」(振付／大橋美帆) 脱皮への心意気が等身大でさわやかに伝わった。「ジー」(振付／高野尚美) 高揚と抑える動きが積み重なって行く。少々比重が抑えの印象に強い。「夢遊論」(振付／さくどう葵) ダンスに自由さがあり、眠りと活動の対比がくっきり。「今朝、少しそう思った」(振付／佐藤優子) 何年か創作すると云う事へのこだわりが続いて来たが、今回は楽な状態でひとり言を感じさせるダンスに変身していた。「島」(振付／すゞきさよこ) 若い娘の伸びやかでパワーあるダンスが南の島への魅力となって観る人を誘う。「風味絶佳」(振付／藤井 香) リズムの振りの楽しさが佳境へ誘う。「ラット・マン」(振付／西川眠眠) ダンスの楽しさを忘に据えたデュエット。最後に人工否定の逆転付き。「白神」(振付／新野由紀) 日本風土は多くの神々を生んだ。素朴な岩、山、石、樹、動物等だが、西洋の森幻想のイメージを受けた。「Kurenai」(振付／松崎えり) アンサンブルを生かした振付で、最後の赤味で染める残光を感じさせる断片的風景を感じた。「ガラスの檻」(振付／山口菜摘) めいっぱいの動きとパワー、若い特権を生かしたダンス作品。毎回の成長ぶりを楽しむ。「どっち道どの道どうせ結局は……」(振付／藤井香) 赤と白の間を揺れ動く感。何だか面白い。「六条幽影」(振付／小川麻里子) 気をダンスでどう表現するかが観る側の関心事。同時限ダンス以外の方法をみつけるのも必要では？「柔らかな光」(振付／江積志織) 美術的空間と身体のコラボが印象強い。「水槽」(振付／藤井 香) 多種要素の必要なダンスを踊るダンサーの力量を感じる。「EXIT」(振付／北野友華) 危機感を抱かせる初めと最後の場面、中間部の群舞で緊張感に弛みがみられたのが残念。「TALK TO MYSELF」(振付／幕田晴美) ニュアンスを排除したストレートな表現法の志向を感じた。開き直って前を見つめる姿勢を感じる。「悪夢のソナタ」(振付／稲富優香) 寸劇風をとり込んだ等身大の楽しいダンス。生き生きと踊り好感。「漆黒ノ芽」(振付／熊木梨乃) 間、呼吸に特徴があり、その伝達がうまい。「cambrian romance」(振付／新野あさき) 正常と異常の中間に視点をあてた作品で象徴的存在を（菓子を食べる、電車のつりかわにつかまっている）行為として置いている。群舞の不条理ダンスを再考して欲しい気がした。「光に沈む」(振付／横山仁美) そつのないダンス、振付なのだが、自身の表現主張をもう少し際立たせてもよいのでは？の感。以上21作品と、今回は松崎えり、松本大樹氏の御協力で、休憩とカーテンコールの場を、偶然の出合いで感じ合う反応を、成るがまま連いで行く空間づくりの試みが提案され、各自が自由に舞台空間を満たして行った。参加者には好評で、又やってみたい！の声が多かった。出場の皆様、ありがとう！そして担当の松崎すみ子、高野尚美理事に感謝を！

撮影／池上直哉

コレオグラファーの vol.5
「SMFアートのわっ！」連携事業

2009.11.21(sat)　13:30～14:00
～アートフリマへの
押しかけショート・コラボレーション～

2009.11.23(mon)　13:30～14:30
～2500本の風車インスタレーション＋
創作ダンスコラボ＝
まわれまわれ、風の娘たち～

Dance Session 2010

2010年2月13日・14日　彩の国さいたま芸術劇場

Pallae
レ・シルフィード
帰る　蒼い春
2月14日(日) 18:00 開演　大ホール
入場料：前売4,000円・当日4,500円(全席自由)

イサク・アルベニス 没後100年
スペインの風
2月13日(土) 18:30 開演　小ホール
入場料：前売2,000円・当日2,500円(全席自由)

コレオグラファーの目
13日(土) 16:00～17:30
ロトンダスペース（無料）

クラシックバレエ教室
13日(土) 13:00～15:00
14日(日) 10:00～12:00
大練習室（各1,000円）

特別講習会「舞台空間」
14日(日) 13:00～15:00
映像ホール（1,000円）

◎チケットのお申し込み・お問い合せは下記"埼玉県舞踊協会"まで
Tel 048-882-7530（月・木のみ）
ホームページ　http://www.saitamaken-buyoukyokai.jp
Eメール　saitama-dance@blue.ocn.ne.jp

伸びゆく彩の国さいたまの子どもたちによる
第43回 **バレエ・モダンダンスフェスティバル**
〈会場〉川口リリアメインホール　■Aプロ 2010.3.6(土) 17:00開演予定　■Bプロ 2010.3.7(日) 15:00開演予定

■Aプロ
第42回埼玉全国舞踊コンクール上位入賞者披露（二部児童）
川名今朝美モダンバレエスタジオ
山本教子バレエスタジオ
ワイズダンスカンパニー（山口弓貴子）
大岩静江バレエスタジオ
田中ひとみモダンバレエスタジオ
吉田久木子モダンバレエ研究所
山路瑠美子バレエ研究所（新座教室）
マヤバレエスタジオ（原島マヤ）
すゞきさよこモダンバレエ教室
窪内絹子モダンバレエ研究所

■Bプロ
第42回埼玉全国舞踊コンクール上位入賞者披露（ジュニア部）
谷 乃梨絵モダンダンススタジオ
佐藤バレエ
細川初枝モダンバレエスタジオ
穴水かおりバレエスタジオ
山崎麻矢モダンバレエスタジオ
和加技舞踊研究所（小林和加枝）
和泉伽甫留バレエスタジオ
藤井舞踊研究所（藤井利子・高野尚美・藤井　香）
中村友美・上田仁美モダンバレエ
井上美代子バレエスタジオ

わたしの思い

手島かつこ

今年の現代舞踊協会の五月の祭典では、「蟷螂（かげろう）のうた」という作品を踊った。数時間から、生きても一週間という短い一生の、かげろうと云う虫。限りある一瞬の命の輝きを踊りたかった。月下美人は夏の夜に、いい香りを放ち、数時間咲いて萎むと云う花。朝萎んで項垂れている花を見て、舞踊は、月下美人の咲いている時間よりも短いよと思う。一瞬のための動きを追求し、訓練し、作品を創る。この刹那に夢中になって、好きで好きでたまらない舞踊と云う魔物を追いかけて、わたしはここまでやって来たんだと改めて思った。

今は亡き藤井公先生は、どういう風に、どんな思いで舞踊を考えていたのだろう。藤井先生が現代舞踊協会の事業部の常務理事だった頃、わたしは事業部長だった。その関係で先生と話す機会が多かったけれど、先生は現代舞踊協会の理事なのに、埼玉県舞踊協会の夢を語ることが多かった。なかでも「埼玉国際創作コンクール」への思いは強く、熱っぽく語っていた。お金がないから毎年はできなかったけれど、資金がもしもあれば、もっともっと大きなことをしたと思う。国際創作コンクールができなくなって「ダンスセッション」に変わっていく過程で、国際創作コンクールを継続できない淋しさ、悔しさは絶対にあったと思う。ちょうネクタイで、ふろしき包みをかかえた姿、外国が好きで、美人が好き、今頃は何処かの国へ行って、「浦和のワイフとどっちが美人か」なんて、舌べろをペロっと出して笑っているかもしれない。今はもう、先生に舞踊のことを聞くことはできない。

わたしは33年間埼玉に住んで、いい時期を過ごしたと思っている。多くの作品を創り、自身も踊った。朝鮮、中国、モンゴルへ出かけ、その付き合いの中で国と舞踊、文化の違いを見た。中国は漢字の国だから何でも同じと考えたら大間違い。同じ漢字でも意味が違うのもあれば文化の違いは大きい。朝鮮も小さいとは言え、大陸続き、モンゴルは馬で走っても走っても行き着かない程広い。こう云う所で生まれた舞踊は、舞踊と云うものの考え方も違うし、舞踊が社会に果す役割もはっきりしている。国が芸術を大切にしてくれているから、人々が舞踊家を見る目も、日本とは違う。技を高めるために、どれだけの年月をかけ、努力したかということをしっかり評価してくれている。

今わたしは、遠くまで行きたいと考える。人生の分岐点に立っているような気がする。年齢のことを考えると、先きが近いように思えるので、そのことは忘れて、ただ自分がしたい事、何がしたくてここまで来たのか、その事だけを考えて、前を見て行こうと思っている。

協会員催し物ご案内
2009年10月～2010年4月

おおみや洋舞協会 第7回公演　《有料》
◎11／15(日) 14：00　彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
☎048(645)6551　アキコカンダ事務所

間瀬バレエスタジオ 第60回記念発表会
◎11／23(月・祝) 14：00　県立熊谷会館
☎048(521)3500　野呂修平

市両芸術空間 アートプロジェクトvol.1《有料》
ライフ イズ アダンス スペシャル
◎11／23(月・祝) 18：00　全労済ホール スペース・ゼロ
☎048(837)2507　市川華代

2009クリスマスバレエコンサートvol.9
◎12／6(日)　さいたま市文化センター 小ホール
☎048(866)4367　和泉伽甫留

マリエバレエ発表会&ベトナムチャリティ2009
◎12／6(日) 17：00　《有料》彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
☎048(222)1535　矢嶋麻律絵

第19回すゞきさよこモダンバレエ教室発表会
◎12／13(日) 15：00　東松山市民文化センター
☎049(285)3198　すゞきさよこ

マヤバレエスタジオコンサートvol.20
◎12／13(日) 15：00　クレアこうのす
☎048(883)8407　原島マヤ

バレエ団ピッコロ クリスマス公演「コッペリア」
◎12／26(土)　《有料》練馬文化センター 大ホール
☎03(3972)1476　松崎すみ子

吉田久木子モダンバレエ研究所 第35回発表会
◎4／3(日) 15：00　クレアこうのす
☎048(541)0926　吉田久木子

山中有子モダンバレエスタジオ発表会
◎4／24(土)　クレアこうのす
☎048(542)1377　山中有子

◎編集後記

日本の政治の変革、それに伴い文化芸術面への不安も増えますが、私たち埼玉県舞踊協会は新しい時代に向け、みんなで力を合わせて進んでいきたいと考えております。協会員の皆様方、ご協力よろしくお願い致します。

広報部　山本教子　笠原千珂子